

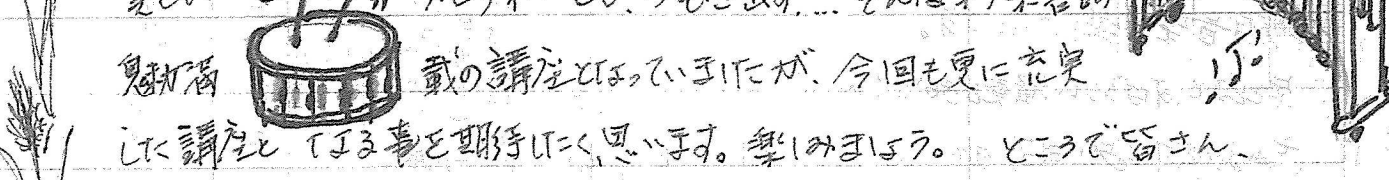
# 音楽のよろこび

立春はすぎても まだまだ寒く、加えて、オミクロン... 平安は日々は、まだ冬の様です...

お待たせしました。本来 昨年9月27日に予定していましたが、打楽器の回、今日はそのリベンジの日です。中山航介さんと中山美輝さん、御二人の打楽器演奏家、御二人でのこの講座に来ていただくのは2回目となります。これまで、神技的

テクニック、そして楽しい音楽のとりと、多くの種類の打楽器を全て演奏されるスーパーマン的音楽家... 追々満点のリズムを打ち出さずと思つて、一方で

美しいメロディをもつむぎ出す... そんな打楽器の鬼才が、戴の講座をこなしましたが、今回も更に充実した講座としてお楽しみを期待しています。楽しみましょう。とここで皆さん、



「打楽器」って、どんなに種類あるの、御存知ですか、ティンパニ、太鼓、小太鼓、トライアングル、カスネット、タンブリン、ラッパル、マリナー、ティムパロ、シンセサイザー、ドラム、エレクトリックドラム、マックス... ええと、まだまだあるぞうで...

次回は3月28日(月) 今年度最終講座は

弦楽器

ヴァイオリン 杉江洋子さん

ヴィオラ 金本洋子さん

コントラバス 出原修司さん

良い会場を、今、さがしています。決定したら、葉書などで連絡します。今しばらくお待ち下さい。

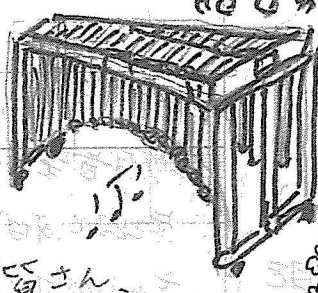
京響メンバーによる大人の音楽教室

2022.2.14(月) (2017.No.1より38号) 今年度No.6

発行文責 担当事務局 田中正幸

「運命はかく扉を叩く」とベートーヴェンの音楽は人を生へと駆り立てる。あの「第五」の最初の主題も、私には生きることへの決意のよう聞こえていた。私はだからあの主題をフォルテシモで威圧するように演奏するより、やや控え目に、しかし鋭いアクセントをもって速目に演奏するのが好きだ。あの主題はやはりすぐれて人間的なものに思える。運命という非人間的なものは、むしろ後期のカルテットのなかで、ネガティヴに表現されているようだ。「第五」はあくまで人間的な決意の歌のように私には聞こえるのだ。そこには人間のすべての感情が、むしろ無秩序にと云っていい程、錯綜して表われる。喜びのすぐ後に怖れ、まるで日常的な卑小なそれと見まがうばかりのあらわな怒り、そして次には愉快な上気嫌、そうしてそれらすべてをつらぬいて生へのあくなき決意。

ベートーヴェンはこの曲を終らせようとしても終わらせきれないといった風に結ぶ。彼はこの曲を無限に続けたいかのようなのだ。それは無理もないことだ。彼はこの曲に生をすべてをぶちこんだのだから彼は沈黙に初めて人間的な戦いを挑み、そして勝つたのだ。



前回は続き 詩人 谷川俊太郎の若き日の「ソネット」愛のソネットから... ベートーヴェンの音楽を若い詩人は、金髪受けて、そのおかしさをほらばる様な筆致で書いています。やはり詩人は感性豊か。ソネット、ベートーヴェンがフランス革命から、ナポレオン戦争、そしてメッテルニヒの反動の時代に生きた。時代の問題も、彼個人の問題も融合させて、偉大な音楽家が登場した。どうしよう、皆さんどう思っていますか。

音楽によって、私は初めて生というものに目を開いた。そしてその音楽は、一連のベートーヴェンの作品であった。その初めてのものが「第五」だった。私は毎日のように、くり返しくり返しそれを聞いた。私はただ感動していた。私は生まれて初めて感動ということを知ったのだ。私はその感動からくるどんな思念もなく、ただ純粹にひたすらに音楽に身をまかせていた。そしてそうすること、私は不思議に元気づけられるのだった。人を慰める音楽もある。だが、人をげます音楽はそう沢山あるものではない。ベートーヴェンの音楽は人をげます。それはリズムの空元気や、フォルテシモのこけおどかしではない。もっと内面から、たとえその音楽がどんなにげしくとも、さながら救いに似た静かな力強さでわれわれをほらばしてくるのだ。「第五」の第四楽章「アレグロ」の主題が先ず私をほらばした。そして「エロイカ」の第四楽章「アレグロ」の後半部が「第七交響曲」第一楽章「ヴィヴァーチェ」のコードが、「第四ピアノ」コンチエルト第一楽章「アレグロ」モテラートの劈頭の部分が、私にとっては、ほらばしに他ならなかった。それらはすべて単なる凱歌以上のものだ。私にとって殆ど宗教的な意味をもっていた。それらは生命の根本からの最も力強いほめ歌なのだ。それは最も効力ある薬でもある。ベートーヴェンの音楽は人を生へと駆り立てる。「運命はかく扉を叩く」とベートーヴェンの音楽は人を生へと駆り立てる。あの「第五」の最初の主題も、私には生きることへの決意のよう聞こえていた。私はだからあの主題をフォルテシモで威圧するように演奏するより、やや控え目に、しかし鋭いアクセントをもって速目に演奏するのが好きだ。あの主題はやはりすぐれて人間的なものに思える。運命という非人間的なものは、むしろ後期のカルテットのなかで、ネガティヴに表現されているようだ。「第五」はあくまで人間的な決意の歌のように私には聞こえるのだ。そこには人間のすべての感情が、むしろ無秩序にと云っていい程、錯綜して表われる。喜びのすぐ後に怖れ、まるで日常的な卑小なそれと見まがうばかりのあらわな怒り、そして次には愉快な上気嫌、そうしてそれらすべてをつらぬいて生へのあくなき決意。

新年らしく気持ちの明るくなる、お正月は演奏ありかどうございませう。知らぬ曲ばかりで親しみを感じました。とてもよい時間をお過ごしください。スタッフの方も京響の方も御体に身をつけて下さい。私、神谷子

弦楽四重奏は久しぶりで、プロダクション中、運営などありかどうございませう。新年度は二つ申し込みます。よろしくお楽しみください。音楽はよく聞え感動しました。お話しは聞えにくい。高令の問題で可也。

日本と西洋の時代を置かざるの説明はとても面白く、身近に歴史を感じました。「ひばり」では、過去の政界、自分達の思い出を追憶し、自分の「王」と... 音楽史の中の音楽家の時代をも想像し、「自然と人間、地球」のテーマは、今昔とも思い、意義深かった。ソプラノの共鳴実験に始まり、巧みに分担された4つの弦楽器の奏する音楽が、間近に空気の振動となってピンピン伝わってくる。テロの響きは、声子も伝わり、4人の声の巧み、眼合わせ、呼吸使の共鳴の姿も目に見ることができた。「交響」とは、良く言合せてもの、ふんふんの修練の「たまもの」として人間的交響的行為の贈物を初音の私は、貴重に有難く頂戴しました。本当に有難うございませう。塩貝

お礼に届けて下さって、ヴァイオリン 松谷由美さんと 塩貝子さん、ヴィオラ、金本洋子さん、テロ、佐藤響さん、ありがとうございました。2月17日、2月18日、N. Tanaka 1/17/20

「打楽器」って、どんなに種類あるの、御存知ですか、ティンパニ、太鼓、小太鼓、トライアングル、カスネット、タンブリン、ラッパル、マリナー、ティムパロ、シンセサイザー、ドラム、エレクトリックドラム、マックス... ええと、まだまだあるぞうで...

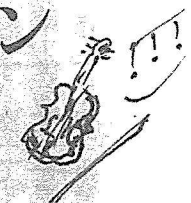
「打楽器」って、どんなに種類あるの、御存知ですか、ティンパニ、太鼓、小太鼓、トライアングル、カスネット、タンブリン、ラッパル、マリナー、ティムパロ、シンセサイザー、ドラム、エレクトリックドラム、マックス... ええと、まだまだあるぞうで...

ニューイヤークンサート

1月17日、弦楽四重奏の美しい響き... 完成されたクラシック音楽の美の典型と言えよう。演奏を聴かせていただきながら感動は、よく知られている曲が多く、親しみやすさもあり、ただ「楽しい」というだけでは、この曲の金本さんがおっしゃっているように、この「ひばり」は又曲である。それは、演奏家が楽曲にとりこみ、一種の緊張感から、私達が音楽と一層、主体的に受けとめ、金盤演の理想に向って、近づこうとする。私達の「金盤演力」と、高めようという時間でもあったように感じました。それは音楽



# 靴磨きとバイオリン



20世紀最高のバイオリン奏者の一人、ユードイ・メニューインは世界平和を求め続けた音楽家である。1975年に制定された「国際音楽の日」(10月1日)は、「紛争をなくし、誰もが音楽を楽しめる世界を実現したい」との彼の願いから生まれている。

第一次大戦中、ユダヤ人として米ニューヨークに生まれ、第二次大戦では米兵を励ますと5000回以上の慰問公演をした。「アンネの日記」のアンネ・フランクが

## 金言 kin-gon

小倉 孝保

亡くなった独ベルゲン・ベルゼン強制収容所が解放された際には、そこを訪ねて演奏会を開いた。

彼の初来日は51年9月15日である。39日間をかけて九州から北海道まで計26回、公演を開催し、占領下の日本人を最高峰の音で激励してくれた。

彼の演奏を楽しみにしていたの

が、長崎県佐世保市に暮らす当時19歳の馬場宏智さんだった。春椎カリエスによる障害に苦しむ馬場さんの趣味は、クラシック音楽を聴くことだった。メニューインの公演を知った彼は2カ月間、生活を切り詰め、靴磨きをしながら800円をたためる。それでチケットを購入し、名演奏を聴いた。

この話を偶然知ったメニューインは公演後、馬場さんを訪ねて握手をした。「何かほしいものは?」と聞くと、馬場さんは「バイオリンと管楽器。日本を離れる直前、メニューインはサイン入りのバイオリンを贈っている。

彼は82年にも千葉県銚子市の福祉施設を訪ね、入所中の馬場さんと31年ぶりの再会を果たした。朝日新聞によると、馬場さんはこの間、バイオリンを大切に持ち続け、「寂しい時はメニューインさんを

この話を偶然知ったメニューインは公演後、馬場さんを訪ねて握手をした。「何かほしいものは?」と聞くと、馬場さんは「バイオリンと管楽器。日本を離れる直前、メニューインはサイン入りのバイオリンを贈っている。

彼は82年にも千葉県銚子市の福祉施設を訪ね、入所中の馬場さんと31年ぶりの再会を果たした。朝日新聞によると、馬場さんはこの間、バイオリンを大切に持ち続け、「寂しい時はメニューインさんを

新春にふさわしい、ヨハン・シュトラウスの春の音がほほえみ背をかがしめる気分になりました。コンサートホールでも京響のニューイヤーコンサート、お世話になっていたが、ヨハン・シュトラウスは条件反射的に「正月気分」になります。

今日は弦楽四重奏ほのび、各楽器の音がきき分け、みわけられてより一層、響きにきこることができました。1/10は金本洋子さんと杉江洋子さんが録音にて演奏されるのを遠くから見ることができ、活躍されている姿、と心があどけました。金本さんは、子さんはそれに気づいたが...のみでせう。

アインクライネは4楽章まで、まゆみきで各楽章のちがいを味わうことができた。110イ・アダンソンの曲は、何れも映画のハッピーなバック音楽でもよくよく軽快な音楽で楽しめた。

年々よりよばる演奏を聴かせていたが、求めたきめる個々にあります。また4月からも京響の音楽教室で学びたいので、よろしく。講義される演者の方は、同じこと思われる、何回でもくゆらして教いてほしいです。うれい。 外務省女子

思い出し、人生の支えに「きた」と話した。

バイオリンの贈呈から70年になった。メニューインはかつて、こう語っている。「昼間、町を掃除する人々が、夜には四重奏を演奏する世界にしたい」。クラシック音楽は何も富裕層の専有物ではない。世界的音楽家が夢見たのは、誰もが芸術を楽しめる社会を作ることだった。

富の分配が世界的な課題である。「ほろまき」的財政出動以外にもその方法はある。貧しくとも音楽や絵画、演劇を楽しむよう、芸術や文化、教育活動を公的に支援するの「富の分配」になる。

メニューインは99年に亡くなった。私は先日、銚子市の福祉施設に問い合わせたが、その後の馬場さんに送る情報はなかった。メニューインのサイン入りバイオリンの行方もわからない。ただ、彼の残したメッセージは、今なお、輝きを失っていない。(論説委員)

2021.11.19

日頃の教室でのちがって、よりの環境もよあはらしいコンサートでした。やっぱり会場にも左右の手ね!!音というのは箱の有無であれだけ違うと、びっくりでした。

今迄の募集要項が何故か着と連絡するまで届かなかったのか、日頃の連絡物は送っていたにしろのに「はあ」と。京響所住優美か???

新しい年のスタートは、やはりヨハン・シュトラウスですね。毎年ウィーンフィルのニューイヤーコンサートE(TVで...)楽しんでいますが、本日京響の皆様演奏を目撃して聴くと、まるで、ウィーン楽友協会ホールにいるようで、ステキな時間を過ごしました。ありがとうございます。今年も楽しみにしております。皆様お元気で御活躍下さい。今年もお世話になります。毎回、楽しみにしております。金本さんご回復されました。金本さんがおっしゃる様に「音楽は私達の生活に絶対必要です。最後の質問コーナー、指揮者の話とは興味深く思われ、うらやましていました。

主な演奏の間に散りばめられた小品なども、楽しい曲も聴かせていただき、楽しく幸せな時間でした。ありがとうございます。生演奏は改めていいですね。毎回楽しみにしています。最後の「ふるさと」は、涙が出てきました。私達のように夫婦で受講している者へのお知らせは、めいめいよく一読したいと思っております。

金本洋子さんの司会、大変楽しく良かったです。もちろん、ウイーンの演奏も素晴らしいです。2月6日の演奏会期待しています。やはり、毎回、頂く資料が読みづらい。苦節に作られているのに申し訳ないですが...。指揮者では佐渡裕さんがNo.1だと思います。

よばる演奏でした。魂住の話を、スリゾールの実験が面白かったです。 尾村博文さま

素晴らしい演奏でした。内容もわかりやすかったです。久々に明るい気持ちになり、幸せを感じました。いつもありがとうございます。永井愛さんの意見に同感です。芸術に対する思いが深い人は、人の心もわかると思います。紹介していたとき、嬉しかったです。踊り猫は娘のバレエ(小学王の唄)がよく聞きました。環以外が難しく、音楽がしっかりと頭に入らなりました。今回改めて弦楽器の素敵な音色に感動しました。

ウイーンの箱が音の鳥の翼が目の前を飛び交う。ライブには富人が音楽を満喫したい。質問コーナーの答えは納得しました。田中裕子さま

ハイドン弦楽四重奏曲67番が良かった。不ふ谷由美さんの流れるような美しいメロディーがよばるかったです。

バラエティ、多彩な曲目で楽しく、コロナも乗り越えたい。やはり「生」はいいですね。椅子が、かたいて腰がいたかったのが、それもさがるほどあつた。質問も、それについての答えも楽しかったです。

